

何事も都合の良い方に解釈

暗闇に浮かぶ、うす白い雲の間から、星が大変きれいだ。船が止まっている様に、星はまったく動かない。

しかし、海の水面が、後方に流れる。自分は止まっただけで、海の水が後ろへと引かれて行くようだ。

寝るのは、遅い目にしようと思ったが、明日の事がある。

十一時頃、まだ、甲板や、別のところでは、起きているのもいる。横になったが、なかなか眠れない。

ところ狭しと、皆で、ゴロ寝で、窮屈で、仕方ない。冷房してある為か、少し、ひんやりして来た。

誰の枕と毛布も失敬した。余分の枕と毛布も失敬した。

「人のだったら、ごめんやあ」

「余分に置いてあるかも」と、何事も都合のよい方に解釈。

それで、なかったら、その人には悪いが、また、他の人の手に入れてもらう事にして、僕は、体をくるんで、みの虫のように寝た。